

## 「KDBを活用したデータヘルス計画について」

国立保健医療科学院 生涯健康研究部

部長 横山 徹爾

### 【講演内容】

データヘルス計画は、

- ①健康・医療情報を活用して
- ②PDCAサイクルに沿った
- ③効果的かつ効率的な保健事業の実施

を図るための保健事業の実施計画であると説明された。

計画の策定に当たっては、

- ・ 特定健康診査の結果、レセプト等のデータを活用し分析を行う。
- ・ 事業の評価においても健康・医療情報を活用し行う。
- ・ 県やそれぞれの市町村で策定している健康増進計画との整合性に留意する必要がある。
- ・ データを分析し、優先課題を見極める能力及び事業実施後の評価を行う能力を養い、PDCAサイクルを展開させる。

ことが重要である。

市町村の中で、健診保健指導事業、生活習慣病対策を上手くできる為には、国保部門、衛生部門の連携（役割分担）は重要。健診等のデータ、レセプトデータを加工（集計）できる人材は必要であるが、KDBシステムの導入は、この壁を取り払ってくれるシステムであると説明。但し、データを読み取る人材は必要で、訓練の必要性についても説明された。

KDBシステムを有効に活用するための視点として、

- ・ どの帳票から、どのようなことが分かるのかを予習
- ・ 取り組む事業にはどの帳票が活用できるかの発想力を高めていくことが必要である。

## 「循環器疾患の鹿児島の特性と対策」

鹿児島大学大学院 心臓血管・高血圧内科学

教授 大石 充

### 【講演内容】

「脳卒中は鹿児島ของ病気である」と述べらた。

鹿児島県の高血圧で治療している患者数（人口10万人当たり推計）

2011年 729人（全国5位）※全国平均534人を

脳卒中の患者数は、全国2位の患者数で、高血圧の人は心筋梗塞や心不全、脳卒中といった「心血管病」になる可能性が高いと説明。

鹿児島の特徴として、

- ・車社会で歩かず、肥満が多い。
- ・味付けは甘辛いのが好き。
- ・アルコール消費量は全国1位で焼酎を飲む機会が多い一方で、果物の消費が圧倒的に少ない。

と説明され、高血圧の予防対策として、

- ・まず何よりも血圧を毎日2回、朝食前と夕食前か寝る前に測定。
- ・減塩を心掛け、果物や野菜といったカリウムやマグネシウムなどを多く含むものを食べることで、体内のナトリウムを排泄させてくれて、減塩と同じ効果がある。
- ・アルコールは1日に度数25度の焼酎なら0.6合が目安。
- ・体重が18歳のときと比較して10kg増えた人は、高血圧になる危険性が2～3倍高まる。血圧を下げるのに一番効果的なのは減量。
- ・1日40分程度、爽やかな汗をかくくらいの適度な運動が良い。
- ・減量は1箇月に1kgが適切。

と説明され、地域性や個人の生活習慣を十分に理解し、それにあつたより効果的な指導を心掛けることが必要との事。